はしもと小児科
院内報

ひなたぼっこ

Vol.10　No.36 October 2025

院長のひとり言

街の小児科のお仕事

～クリニックがお休みの日、先生たちは何をしているの？～

「街の小児科って、平日の午後や祝日がお休みのところが多いけれど、先生たちはその時間に何をしているんだろう？」
そんなふうに思ったことはありませんか？
ある研修医の先生が「家で寝ていると思っていました」と言っていたこともあります。
診察している姿は見えても、その裏側は意外と知られていません。
今日は、そんな“診察室の外の仕事”を少しだけご紹介します。

木曜午後はお休みですが…

当院は木曜の午後が休診です。
でも、ある木曜の午後には、お茶の水にある東京都医師会館へ。
「定点医療機関関連協議会」という会議に出席してきました。
ニュースで耳にする「インフルエンザが流行し始めました」「百日咳が増えています」といった情報。
実は、全国の開業医が毎日診察した感染症の数を集計し、保健所に報告することで作られているのです。
この地道な感染症のカウント作業は「サーベイランス事業」と呼ばれ、地域の感染症対策の基盤となっています。

会議や健診もたくさん

感染症関連の会議以外にも、委員会、講演会、健診の読影会など予定は盛りだくさん。
当院では、市内の小中学校２校の学校医、保育園 14 園の園医、さらに児童発達支援や放課後等デイサービスの嘱託医も担当しています。
就学時健診や定期健診、健康相談などを、近藤先生・岡崎先生・伊藤先生と協力しながら、診療時間外に行っています。
また、内科や外科を標榜する診療所では、肺がん・乳がん・胃がんなどの読影会が、医師会館で週１回のペースで開催されています。

行政との連携も

学校教育、保育、児童虐待対応、介護保険、生活保護、災害時医療など、行政との会議も多岐にわたります。
医師会を通じて役割を分担し、市民の安全な暮らしを支える“縁の下の力持ち”として、見えない仕事を担っています。

勉強は一生続く

そして、もっとも時間を使っているのが「勉強」です。
学会や勉強会、最近ではオンライン講習も増えました。
医療知識は日進月歩で進化しており、その習得は日々の診療に欠かせません。
以前は、診察終了後の夜間や休診日のプライベート時間を使って学会に参加することが多かったですが、最近では時間外の研修を避ける傾向も見られます。
プライベートの時間を大切にする流れも、時代の変化ですね。

最後に

現在、病院の約７割が赤字という厳しい時代。
それでも、八王子のクリニックは医療の良心を守りながら、日々奮闘しています。
診察室の外でも、開業医たちはさまざまな“見えないかたち”で地域のみなさんの健康を支えていることを、ぜひ知っていただけたら嬉しいです。

日本外来小児科学会に参加してきました（香川県高松市）

８月 30 日～31 日、香川県高松市で開かれた日本外来小児科学会に参加し、「境界知能の子どもが受けている支援の実態調査」というテーマで発表してきました。　境界知能とは、IQ が 71～85 くらいの子どもたちのこと。学習や友達づきあいでつまずきやすいのに、周りからは気づかれにくく、支援につながりにくいという特徴があります。今回の調査により、地域のクリニックが検査を行うことで、早めに支援へつなげられる可能性が見えてきました。学会では、全国の先生方と意見交換をしながら、「医療と教育がもっと手を取り合えば、子どもたちの笑顔が増える」という思いを、改めて強くしました。

せっかくの香川ということで、名物の讃岐うどんも堪能。コシのある麺とやさしい出汁の味に、思わず笑顔になりました。学会の懇親会では、本場の阿波踊りを見て感動しました（写真）。学会後は小豆島にも足をのばし（滞在時間 50 分）、オリーブ公園や瀬戸内海の穏やかな景色に癒やされました。短い時間でしたが、心も体もリフレッシュできました。今回学んだことを、これからの診療やスタッフ間の情報共有に活かし、子どもたちとご家族が安心して過ごせるよう、引き続き取り組んでまいります。　（心理士）

＼AED・CPR 体験型勉強会のお知らせ／

当院では、保護者の皆さまに安心して子育ていただけるよう、少人数制の体験型勉強会を開催しています。この勉強会は、看護師が講師となり、万が一のときに役立つ AED（自動体外式除細動器）の使い方と、CPR(心肺蘇生法)を実際に体験しながら学ぶことができます。

お子様連れでの参加も可能ですので、日常の延長で気軽にご参加いただけます。
いざという時に「知っていてよかった」と思える知識と技術を、
この機会に身につけませんか。

日時・場所・申込方法などの詳細は受付
またはホームページをご覧ください。
皆さまのご参加をお待ちしています。

食育とは

人間の体は食べたものでできています。食を育むということは、生きる力を養うこと。未来の自分をつくるということです。そして食育の始まりは離乳食。赤ちゃんの体だけではなく、心を育てる基本です。食べる意欲は脳を刺激し、その後の様々な発達にも影響します。偏食を防ぐ第一歩でもあります。月齢に合わせてゆっくり進め、いろいろな味を舌で感じさせ、食事の楽しさ、おいしさを教えてあげてください。

さて、八王子の郷土食はご存知でしょうか・・？小学生の皆さんは給食で教わりましたね。お家でその土地の野菜を育てるのも楽しいです。受け継がれる郷土食。　季節の行事食も大切に伝えていきましょう。

食事に関するお悩みは遠慮なくご相談ください。

（栄養士　篠原）

掲示板

冬期休暇　12/29(月)～1/4(日)
休日当番　1/3（土）

10 月からインフルエンザワクチン接種が始まりました。八王子市在住の生後 6 か月～13 歳未満の方は助成がありますので、市の HP より申出書をダウンロードしてお持ちください。